

国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業

(報告)

中小企業家同友会全国協議会 女性部連絡会代表 系数久美子

【開催趣旨・目的】

日本の経済成長に「女性の活躍」が欠かせないとの認識が高まっている昨今、女性活躍推進室やダイバーシティ推進室を設置し、本格的に女性の活躍推進に取り組む企業も増えてきました。また、福岡では、産官学民をあげて女性の活躍を推進しようと、「女性の活躍推進福岡県会議」が発足。企業には女性の管理職率の目標を登録してもらう運動が始まろうとしています。

大企業の女性活躍の事例はメディア等によく見聞きしますし、先の「女性の活躍推進福岡県会議」の発足式でも出てくるのは大企業ばかりでした。中小企業経営者の意識はまだです。しかし、大企業のように充実した制度を整備できなくても、小さな企業だからこそ、トップの意識次第で社内環境を大きく変えることができます。中小企業では「制度があるというより、本人の希望に合わせる」ことができます。数はまだ少ないですが、10人以下の従業員の企業でも育児休業を取得する社員のいる企業や、女性営業を増やして業績をあげている中小企業もあります。

一方、「女性活躍をすすめる」ことには賛成でも、「わが社でどうしたらいいかわからない」「うちのよう小さな会社で女性の活躍促進など無理だ」と女性社員の登用に消極的な企業が多いのも事実です。女性の活躍で企業変革をもたらし、新しい時代に打って出るためにも、今回は、中小企業経営者を対象に、女性社員を男性と同様にその可能性を信じ、仕事を任せてみよう、という気持ちになっていただくことを目的としています。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

女性活躍推進を考えるシンポジウム in 福岡

「女性の活躍で変わる、変える、これからの中小企業」

【日時】 2013年10月28日(月) 13:00-16:30

【場所】 電気ビルみらいホール

【参加者数】 115名

【プログラム】

開会挨拶 中山英敬(福岡県中小企業家同友会 代表理事、㈱ヒューマンライフ 代表取締役)

第1部 基調講演

「人財を活かす ～女性の活躍で業績を伸ばし、経済の活性化を！～」

橘・フクシマ・咲江/G&S Global Advisors Ink. 代表取締役

第2部 事例報告

「自社の女性活躍推進の取り組みについて」

- ・前田雅史/エイエス九州(有) 代表取締役
- ・稲田磯美/(株)ふくや 営業部お客様サービス室室長
- ・中村太郎/グリーンライフ産業(株) 代表取締役

第3部 グループディスカッション（討論と発表）

テーマ：「女性の活躍で変わる、変える、これからの中小企業 私たちの会社の未来は？」

本日のまとめ 合力知工／福岡大学商学部 教授

閉会挨拶 糸数久美子／中小企業家同友会全国協議会 女性部連絡会 代表、株式会社 ITAC 代表取締役

【参加者からの主な意見】

- ・国際的な視点で話を聴けました。また、女性だけというより会社・社会・男性すべてにおいて協力が大事だと思いました。
- ・数値目標をたて適正な人選をし育てていく、そして成果につなげていく。男女を区別しているのは実は私自身でありここから私の意識改革から始めていかなければならないと思いました。
- ・女性の自立、そして男性も家事の自立の大切さがよくわかりました。女性も男性も一人の人間として仕事も家事も育児も分担してやってく時代になるといいなと思います。
- ・企業＋行政、このようなスタイルのグループワークはとても意味のあるものでした。企業側の思いや考えがわかりました。
- ・適所適財で男女が楽しく働き成果を享受できる会社づくりに一步一步取り組みたいと思った。働き方を変えていきたい。変えていく気持ちを社員に伝えていきたい。
- ・企業が男女共同参画をテーマにグループワークを行政、内閣府等と行うことはとても意味深いと思います。
- ・「女性が活躍できる社会づくり」の仕組みは、もうできている。それを本当にやるかは当事者の覚悟にかかっている。その覚悟が不十分であると思う。
- ・各社の取組が聞けて良かった。もっと詳しく知りたいと思った。トップの考えをどう伝え実践するかだと思う。

【シンポジウム等を通して得た成果（効果）】

日本経済において、女性が活躍し、成長していくためには、「企業の意識」、「家庭の意識」、「行政の支援」が大事であることを確認できました。すでに女性が活躍できる仕組みづくりはもう出来ており、あとは行政、経営者、社員と家族、そして社会全体が本当にやる覚悟があるかどうかにかかっています。今回のシンポジウムを通して、あらためて女性・男性に関わらず、その能力を認め、活躍させていくことが大事であり、企業の生産性があがるだけでなく、そこに働く人々の幸せにもつながることを再認識できる会合となりました。また、発表を聞くだけではなく、グループに分かれて討論することで、女性活躍について自分事のように考える時間を持つことができることも有意義な時間となりました。

【今後の課題】

2020年30%を目指すにあたり、企業としての問題、男性側の問題、女性側の問題、いろいろあり、道のりはまだまだだと考えられます。まずは女性がいきいきと働きがいを持って働ける職場づくりを目指しことが必要であり、これは企業だけで出来る話ではない。行政と中小企業者、地域に暮らす人々が共に目指してやっていくことが重要であり、どう取り組んでいくかが今後の課題です。女性の活躍は経営者が変わってやるんだという決断、そして女性が持っている本来の力を発揮しあうことがこれからの世の中づくりになっていくと考えられます。